

平成29年度 自己評価書

学校名

北海道厚真高等学校

1 本年度の重点目標

- (1) 本校生徒に必要な資質・能力を明確にし、基礎的・基本的な知識や技能及び課題解決に必要な思考力、判断力、表現力を育成するとともに、主体的に学習に取り組む生徒を育てる。
- (2) 公共の精神や社会規範及び自他の生命を尊重する意識と態度を持ち、自ら正しく判断して行動できる生徒を育てる。
- (3) 自己の個性や適性を理解し、将来像を描き、自ら未来を切り拓く生徒を育てる。
- (4) 特別活動や部活動を通して、よりよい人間関係を形成し、心豊かにたくましく活動する生徒を育てる。

2 自己評価結果

評価項目・指標等			達成状況	取組の適切さ	今後の改善の方策
大項目	中項目	小項目			
学習指導	基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、基礎学力の充実と向上を目指す。	(指標) 生徒の自己評価、学校生活アンケート等において、「朝学習」の取組等に係る肯定的な回答が70%以上となること。 (生徒の肯定的な回答(そう思う・おおむねそう思う)が70%以上を評価A、50%以上を評価B、50%未満を評価Cとする)	A	B	・「朝学習」については、生徒の肯定的な回答が83%であり、次年度は90%以上を目標とし、引き続き内容・取組の充実を図る。
		(指標) 生徒の自己評価、学校生活アンケート等において、家庭学習に関して「取り組んでいる」「概ね取り組んでいる」等の肯定的な回答が60%となることを目標とする。 (生徒の肯定的な回答(そう思う・おおむねそう思う)が60%以上を評価A、40%以上を評価B、40%未満を評価Cとする)	B	C	・家庭学習については、各教科における課題の工夫や週末課題等の実施に取り組む、次年度は生徒の肯定的な回答が60%以上を目指す。
生徒指導	公共の精神や社会規範を尊重する意識と態度を持ち、自ら正しく判断して行動できる生徒を育てる。	(指標) 生徒の朝の遅刻について、平成28年度遅刻総数より20%以上の減少とする。 (遅刻総数20%以上の減少を評価A、10%未満の減少を評価B、増加を評価Cとする)	C	C	・遅刻については、今年度の結果を踏まえ、生徒指導部を中心に全教員で連携しながら指導の徹底を図る。また、進路意識の高揚や生徒会の啓発活動、家庭との連携など多面的な取組を積極的に進める。
	日常指導や予防的活動を通して生徒の規範意識の育成を図り、共通認識に基づく連携のとれた指導体制を確立する。	(指標) いじめアンケート等において、「いじめはどんな理由があっても許されないことだと思いますか」について、「そう思う」と回答する生徒の割合を100%とする。 (回答の割合が100%であれば評価A、80%以上が評価B、80%未満は評価Cとする)	B	B	・いじめアンケートについては、「そう思う」との回答が86%であり、次年度も100%を目標に各HRや全校集会時における指導、生徒会の自主的な活動等の充実を図る。
進路指導	3年間を見通した各学年の指導計画を立案し、学年団との協力体制に基づいた進路指導を行う。	(指標) 就職を希望する生徒の進路実現について、年度内の内定率を100%とする。 (内定率が100%であれば評価A、80%以上が評価B、80%未満を評価Cとする)	B	A	・就職希望者の内定率については、96%(1名未定)となっており、引き続き年度内100%を目指す。次年度も進路指導部・学年の連携のもと、進路指導・キャリア教育の充実を図る。
	生徒の進路希望の実現に向けた講習計画や面接指導を計画し、模擬試験を実施する。	(指標) 生徒の資格・検定取得等の取組について、受験率100%を目指す。 (受験率が100%であれば評価A、80%以上が評価B、80%未満を評価Cとする)	C	B	・2・3年生(90%)と比べ、1年生(15%)の受験率が低い。進路指導及び各教科指導と資格検定・取得指導を連携させながら、受験率100%を目指し取り組む。

3 次年度以降の目標設定等に反映させる自己評価結果及びその改善方策事項

- ・学習指導について、生徒への学習に対する意識付けを一層重視し、各教科における日常の課題や週末課題等の工夫・改善に取り組み、家庭学習の習慣化を目指す。
- ・生徒指導について、家庭との連携を一層密にし、全教員による共通認識・行動により、欠席・遅刻・早退減少に向けた指導の徹底を図る。
- ・進路指導について、授業等を通して資格検定取得へ向けた動機付けを図り、全員受験、全員取得を目指すとともに進路意識の一層の向上を図る。